

# バイオロジクスフォーラム第10回学術集会の開催にあたって

バイオロジクスフォーラム 代表世話人

豊島 聡

バイオロジクスフォーラムは、産業化のハードルが高いといわれるバイオロジクスについて、産官学においてバイオロジクスの開発・承認審査等に関わっている者が一堂に会して問題点を洗い出すとともに徹底的に議論し、問題を解決・克服して、より有用なバイオロジクスが迅速に医療現場で使用できるようにすることを目的に設立されました。

一方、近年国民の医療イノベーションへの期待が高まり、ライフイノベーションの推進・振興が盛んにいわれてきていますが、バイオロジクスにはそれ自身あるいはその開発技術に新規性の高いものが多く、ライフイノベーション推進の主要なターゲットとなっています。特に、京都大学iPS細胞研究所の山中伸也教授がノーベル賞を受賞したことにより、iPS細胞の医療現場での実用化に対する期待は非常に大きくなってきています。

そこで、第10回を迎えた今回の学術集会では、主題を「期待されるバイオロジクスイノベーションとは」とし、“ 遺伝子組み換えタンパク質”、“ ワクチン”、“ 遺伝子治療薬/細胞・組織製品”の三分科会に分かれて、講演と討論が行われます。午前の部では、遺伝子組み換えタンパク質医薬品の中でも特に近年技術革新の進んでいる抗体医薬品を中心とした講演があります。まず特別講演として、東京大学先端研の児玉龍彦先生から最近注目を集めている分子設計抗体についてその基

盤技術開発と実用化についてお話しいたきます。分科会では、抗体を中心としたバイオ医薬品開発の新技术について、その動向と課題等を抗体医薬の開発の中心を担っている製薬企業の方々に講演いただきます。

午後は、ワクチンと遺伝子治療薬/細胞・組織製品の二分科会に分かれます。ワクチン分科会では、「期待されるワクチンイノベーション」を主題に、ワクチンそのもののメリットとデメリット、我が国の予防接種の現状等に加えワクチン開発での新技术や承認審査状況等の講演があります。遺伝子治療薬/細胞・組織製品の分科会では、遺伝子治療薬/細胞・組織製品の品質・非臨床安全性試験について、遺伝子または細胞・組織を用いた先端的な医薬品・医療機器の品質・非臨床安全性試験を考える上で、既存の製品とは異なる製品特有の新たな課題とその解決策を探ることを目的に、遺伝子治療薬等の品質・安全性に関する話題、細胞・組織加工製品の品質・安全性に関する最近の話題の講演があります。またこの分科会ではiPS研究所の先生から、iPS細胞研究の最近の状況についてお話いただきます。

本日の学術集会が、本フォーラムの設立趣旨に従い、ご出席の産官学の皆様方が活発な討論を行うことにより、有用なバイオロジクスの迅速な医療現場への提供に寄与することを確信しております。活発な討論をよろしく願いいたします。